

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 5 日現在

機関番号：17201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370593

研究課題名(和文)日本語学習者の会話遂行時のモニタリング行為の分析 - 会話教育のための基礎研究 -

研究課題名(英文)An Analysis of Monitoring of Learners of Japanese During Conversation: A Study on the Acquisition of Conversational Skills

研究代表者

フォード丹羽 順子 (Ford-Niwa, Junko)

佐賀大学・全学教育機構・准教授

研究者番号：70286201

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、会話参加者が会話中に内省的に行っている、自己と会話相手の言語行動に関する評価や判断を「モニタリング」と名づけ、日本語学習者と日本語母語話者に対し依頼場面のロールプレイを実施して、モニタリングのデータをとった。学習者のモニタリングから、会話をスムーズに進めている学習者は相互行為的なモニタリングを多く行っていることがわかった。また、母語話者のモニタリングには、学習者の言語行動に対し違和感を抱いたというコメントがしばしば観察されたが、同時に、違和感を抱きつつも、学習者の言語行動に対してさまざまな配慮をしていることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This study analyses the monitoring of role play activities between Japanese learners and Japanese native speakers. By monitoring is meant the spontaneous evaluations and judgements regarding the communication behaviors of the conversation partners. We found that good learners usually monitor aspects of their interactions in order to help the conversation advance smoothly. Native speakers sometimes feel unnaturalness towards the learner's communication behaviors, however, at the same time take them into consideration.

研究分野：日本語教育

キーワード：モニタリング 会話遂行時 ロールプレイ 接触場面 母語話者の違和感 母語話者の配慮

## 1. 研究開始当初の背景

日本語学習者に対する会話教育では、ロールプレイ活動を行い、フィードバックがなされることがしばしばある。教師はその際、学習者の文法、表現、語彙、発音、イントネーションなどに注目して、学習した項目が使えているかを確認し、できるだけ自然な日本語になるよう、指導に努めるのが一般的であろう。しかし、当の学習者がどのようなことを考えたり、どのような点に留意したりしながら発話しているかに関しては、これまであまり注目されてこなかったのではないだろうか。教師は、会話遂行時に、上述したような「学習到達度確認行為」は行っている、学習者のこのような「モニタリング行為」には、あまり注意を向けてこなかったためと考えられる。

筆者らは2010年に、会話テストとして実施されたロールプレイの中で数多く観察された「笑い」に注目して、「笑い」が生じた原因に関するモニタリングのデータを取り、会話テスト場面における談話の分析を行った(フォード丹羽・三宅2010)。本研究では、「笑い」が生じた発話だけでなく、すべての発話について、モニタリングのデータをとることにした。学習者のモニタリングの実態を把握することは、学習者の思考プロセス、誤用や誤解の原因を知ることにつながるのではないかと考える。

モニタリング(あるいはモニター)という概念は、これまでも日本語教育で用いられてきたが、本研究よりも狭い意味でとらえられることが多かった。たとえば、ポイクマン(2009)は、「モニターとは、自らの言語表現が適切な言語使用から逸脱していないかどうかをチェックすることである」というように、適切か否かという観点からとらえられている。一方、日本語能力の育成というよりも、学習者のメタ認知の意識過程に注目したものとして、金妍(2011)がある。金妍(2011)

は、学習者の日本語学習全般に対する意識や、インタビュー時の意識といった広範囲の意識を扱っている。

本研究は、これらの先行研究とちがって、学習者および母語話者が行った、自己と会話相手の言語行動に関するモニター内容を調査するものである。

## 参考文献

- 金妍(2011)「日本語授業における学習者のメタ認知の分析」『接触場面・参加者・相互行為接触場面の言語管理研究』vol. 9、千葉大学
- フォード丹羽順子・三宅和子(2010)「会話テスト場面の談話の分析 ロールプレイにおける話者の内的フットィングの変化」『佐賀大学留学生センター紀要』第10号、1-15、佐賀大学
- ポイクマン総子(2009)「モニター能力を育成するための教室活動とフィードバック」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』24号

## 2. 研究の目的

本研究でいう「モニタリング」とは、会話参加者が会話中に内省的に行っている、自己と会話相手の言語行動に関する評価や判断である。会話遂行時に学習者および母語話者はどのようなモニタリングを行いながら会話をしているかを明らかにすることを目的とする。

また、モニタリングの実態を知ることが、教育にどのように役立てていくことができるのかを考察する。

## 3. 研究の方法

日本語学習者と日本語母語話者に対し依頼場面のロールプレイを実施し、実施後1週間以内に、モニタリングのフォローアップイ

インタビューを行った。インタビューの際には、会話を文字化したデータを見せながら、録音した会話を聞いてもらい、発話ごとに、自らが話している時と、相手の発話を聞いている時に、どのようなことを考えていたかを話してもらった。

【平成25年度】

初中級（N3）レベルの日本語学習者5名に対し、日本語教師を会話相手にした依頼場面のロールプレイを実施し、学習者から、モニタリングのデータをとった。ロールカードは次のようなものである。

あなたと友だち4人ぐらいは、日本の料理をひとつマスターしたいので、先生に教えてもらいたいと思っています。

【平成26年度】

日本語学習者（初中級（N3）レベル4名と中級（N2）レベル4名）と日本人学生に対し依頼場面のロールプレイを実施し、双方から、モニタリングのデータをとった。平成25年度は、日本語教師を相手にロールプレイを行い、教師側からのモニタリングがとれなかったため、26年度は、日本人学生を会話相手にしたロールプレイを行った。

ロールカードは次のようなものである。

学習者

あなたは来週、授業で発表することになっていますが、その準備がまだできていません。バイト先の同年齢の（同じころ働き始めた）日本人学生に「今週の土曜日のシフトを代わってほしい」と頼んでください。断られても、もう一度頼んでみてください。どうしても無理と言われたら、あきらめてください。

日本人学生

バイト先の同年齢の（同じころ働き始めた）留学生に「今週の土曜日のシフトを代わってほしい」と頼まれます。あなたは2週間後の発表の準備で忙しいので、まず断ってください。相手がさらに頼んできたら、引き受けるかどうかは自分で判断してください。

【平成27年度】

平成26年度に行ったロールプレイのモニタリングデータについて、日本人学生の配慮という観点から考察を行った。

4. 研究成果

本研究の結果、明らかになったことを、以下にまとめる。

（1）平成25年度に行ったロールプレイのモニタリングのデータを整理したところ、次の3種類に分けられることがわかった。

言語的モニタリング

語彙、音声、文法などに関するモニタリング

談話的モニタリング

談話の流れに関連するモニタリング

相互行為的モニタリング

相手の発話の理解や、相手の発話を受けての自分のムーブに関するモニタリング

日本語学習者5名は、同じ初中級クラスで学んでいる学生であるが、日本語能力が高レベル2名、中レベル1名、低レベル2名であった。高レベルの学習者はモニタリングの頻度も高く、相互行為的モニタリングを中心に行っていた。それに対し、低レベルの学習者はモニタリングの頻度も少なく、また談話的モニタリングが多かった。中レベルの学習者は、高レベルの学習者に比べると、言語的能力は劣るものの、相互行為的モニタリングを頻繁に行っており、またその他のモニタリングも適所でメリハリをつけて行っていた。こ

のことから、3種類のモニタリングを適切な箇所で行うことが、会話をうまく遂行していく上で有効な方法となりうることが示唆された。

(2)平成26年度は、学習者と日本人学生とでロールプレイを実施し、双方からモニタリングのデータをとった。日本人学生のモニタリングには、学習者のコミュニケーション行動に対して違和感を抱いたというコメントが観察された。これらを詳しく見ると、次の3種類に分けられることがわかった。

#### 言語的違和感

文法、語彙、表現、発音など、言語的分野に関する違和感

#### 談話展開的違和感

談話の構成や談話のやりとり、展開のしかたに関する違和感

#### 語用論的違和感

文法的な間違いではないが、その場における語や表現の適切性に関する違和感

言語的違和感は、文法的間違いなどから生じており、間違いはあっても寛容に受け取られるが、談話展開的違和感は、相手の意図がうまく理解できずに会話がスムーズに進められない場合、言語的違和感の場合より、わかりにくさに対する評価がやや厳しくなっていた。そして、語用論的違和感については、日本語社会でとるべきコミュニケーション行動に関する規範に照らし合わせて、学習者のコミュニケーション行動にずれがみられると感じ、批判的な見方がなされることが明らかになった。

(3)平成27年度は、平成26年度に行ったロールプレイのモニタリングデータについて、日本語母語話者の配慮という観点から考察を行った。配慮は次の3種類に分けられることがわかった。

#### 言語的な配慮

#### 談話展開的な配慮

#### 語用論的な配慮

は、学習者の日本語能力に対する配慮で、たとえば日本人学生が依頼を引き受ける際に「しゃーないね」と言ってしまったあとで、学習者がわからないかもしれないと思って「あ、いいよ」と続けるというものである。

は、会話が円滑に進むようにする配慮で、たとえば、学習者の応答が不適切で理解するのに困難があっても、話をつなげるために受け入れるというものである。

は、相手の感情を考える配慮で、たとえば、依頼を断る際に相手を傷つけないように、柔らかく聞こえるような発音のしかたをする(ためらいがちに言う)ものである。

日本人学生はこれら3種類の配慮をしながら会話をしていることが明らかになった。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

(1) フォード丹羽順子・三宅和子(2016)

「接触場面における日本語母語話者の配慮 ロールプレイにおけるモニタリングの分析を通して 『ヨーロッパ日本語教育』20、ヨーロッパ日本語教師会、査読あり

(2) フォード丹羽順子・三宅和子(2015)

「学習者のコミュニケーション行動に対する母語話者の違和感 - ロールプレイにおけるモニタリングの分析を通して - 」 『佐賀大学全学教育機構紀要』第3号、87-98、佐賀大学、査読なし

(3) 三宅和子(2014)「ロールプレイにおける学習者のモニタリング - モニタリングの実態から教育を考える - 」 『日本文学文化』第13号、1-16、東洋大学、査読なし

(4) 三宅和子・フォード丹羽順子(2014)

「日本語学習者の会話遂行時におけるモニタリング行為」『ヨーロッパ日本語教育』18、37-38、ヨーロッパ日本語教師会、査読あり

〔学会発表〕(計2件)

(1) フォード丹羽順子・三宅和子(2015)

「接触場面における日本語母語話者の配慮 ロールプレイにおけるモニタリングの分析を通して」第19回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム、ボルドーモンテニュ大学(フランス)、2015年8月28日)査読あり

(2) 三宅和子・フォード丹羽順子(2013)

「日本語学習者の会話遂行時におけるモニタリング行為」第17回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム、マドリードコンプルテンセ大学(スペイン)、2013年9月6日)査読あり

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

フォード丹羽 順子

(FORD-NIWA, Junko)

佐賀大学・全学教育機構・准教授

研究者番号：70286201

### (2) 研究分担者

三宅 和子 (MIYAKE, Kazuko)

東洋大学・文学部・教授

研究者番号：60259083